TOPICS 3

令和4年度国際消防防災フォーラム（シンガポール）の開催

参事官

1. 国際消防防災フォーラム（International Forum on Fire and Disaster Management）

経済発展や都市化が進展しているアジア諸国では、これまで以上に高度な消防防災体制を構築する必要性が高まっており、これらの国から我が国に対し、人命救助や消火技術、火災予防制度等に関する知見の共有や技術の移転を求める声が届いています。

このことを踏まえ、消防庁では我が国の消防防災技術・制度等を、アジア諸国を中心に広く紹介する国際消防防災フォーラム（以下「フォーラム」）を平成19年度から開催しており、これまでに、ベトナム、トルコ、タイ、インドネシア、モンゴル、ミャンマー、カンボジア、マレーシア、フィリピンの９カ国で実施してきました。

また、フォーラムには開催地の消防防災関係者が多数集うことから、我が国の消防防災インフラシステムの海外展開を推進する場としても活用すべく、平成 25 年度からは日本企業による消防防災関連製品の紹介・展示も行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うパンデミックの影響を受け、令和３年度は、オンラインで開催したところ、約60カ国より1,200名以上の参加登録を得ました。日本企業の参加者からは、「全世界に向けて企業活動のＰＲができたため、良い機会となりました」、「11言語の同時通訳により、グローバルにＰＲできたので感謝します」といった感想が示される一方、「多くの人に効率的に話しかけるという意味では良かったと思いますが、やはり直接、人々に話しかける事ができた方が良いです」と対面での実施を望む声も聞かれました。このようなこともあり、令和４年度のフォーラムは、国交往来やイベント開催に関する各種制限の緩和状況を詳細に確認し、対面形式に戻すこととしました。

また、従前のように特定の国を対象とせず、複数のＡＳＥＡＮ諸国の消防防災関係者の参加を得て、我が国の消防防災制度や製品をより幅広く周知すべく、今次は、「マルチ形式」での開催を試みました。

なお、開催場所は、国際会議が高い頻度で行われているシンガポールを選択しました。

2. 参加者

ＡＳＥＡＮ諸国の消防防災関係機関に対し、フォーラムへの参加を呼びかけたところ、以下の組織より、合計約90名の参加がありました。

カンボジア：DEPARTMENT OF FIRE AND RESCUE POLICE
　　：Fire and Rescue Department
　　：COMMISSARIAT OF PHNOM PENH MUNICIPAL POLICE
　　：COMMISSARIAT OF SIEM REAP PROVINCIAL POLICE
シンガポール：Singapore Civil Defence Force
タイ：Bangkok Fire and Rescue Department
フィリピン：Bureau of Fire Protection
ベトナム：Vietnam Fire and Rescue Association
マレーシア：Fire and Rescue Department of Malaysia
ラオス：Fire Prevention and Fighting Police Department
　　：International Relations Department
　　：Ministry of National Defence
　　：Social Welfare Department

日本側からは、消防庁以外に、在シンガポール日本国大使館、自治体国際化協会（ＣＬＡＩＲ）シンガポール事務所、独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）、そして、消防防災関連企業が参加し、全体では約130名の出席を得て、令和５年３月１日～２日（１日半）、フォーラムが開催されました。

3. プログラム

今次のフォーラムは、石川駐シンガポール日本国特命全権大使のオープニングスピーチにより幕を開けましたが、続いて実施されたフォーラムの各種プログラムを、カテゴリーごとにご紹介します。

（石川大使によるオープニングスピーチ）

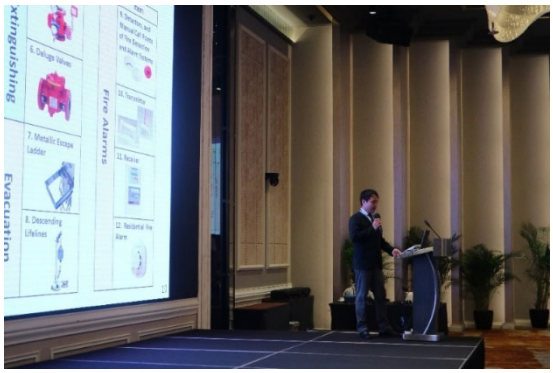
（１）我が国の消防防災関係制度

①消防用機器等に係る基準・規格・認証制度

消防庁予防課の小林国際規格係長からは、我が国の消防用機器等の基準・規格・認証制度についての概要説明がなされ、その中で、検定や自主表示といった仕組みが粗悪な消防用機器等の流通を阻止する有効な手段である旨の発言がありました。

②消防団制度

消防庁地域防災室の青野消防団係長からは、災害発生時に、我が国の消防団がどのような活動を行っているのか、また、その活動は災害対応のみに留まらず、平時においても、地域の防災リーダーとして、啓発活動に従事するなど、献身的な活動を日々行っていることが紹介されました。



（消防用機器等に係る基準･規格･認証制度に関するプレゼンテーション）

（消防団制度に関するプレゼンテーション）

（２）我が国の消防防災関係企業の製品

以下の 10 企業等が会場内に設置されたブースにて製品説明を行うとともに、１社 20 分ほどのプレゼンテーションも行われました。

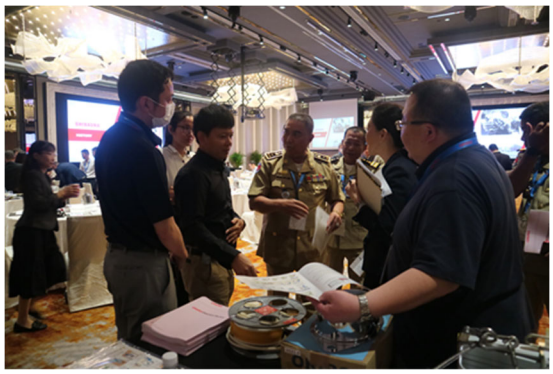
（株）赤尾、オリロー（株）、（一財）海外通信･放送コンサルティング協力（JTEC）、（株）シバウラ防災製作所、トーハツ（株）、能美防災（株）、（株）初田製作所、船山（株）、ホーチキ（株）、YONE（株）（※50 音順）

参加企業等からは､｢今まで接触がなかった国の消防防災関係者と接点をもつことができた｣､｢ＡＳＥＡＮ各国の消防・防災関係組織とご挨拶でき、今後、この分野に取組むにあたって大きな人脈構築の機会を得た｣ などの感想が寄せられました。

今次は、複数の国の消防防災関係者が一堂に集い、その中には幹部レベルも含まれていたことから、企業及び製品の海外市場における認知度向上への効果はより大きなものになったのではないかと思われます。参加企業の皆様には、今次のフォーラムをＡＳＥＡＮの消防防災担当省庁や公的機関との関係を構築あるいは深化するきっかけにして、更なる海外展開を図っていただきたいと考えています。

（日本の消防防災関連企業によるプレゼンテーション）

（プレゼンテーションに耳を傾ける参加者）



（展示ブースにおける製品説明）

（３）ＡＳＥＡＮ参加国の消防防災に関する取り組み等

シンガポールで消防を担当する Singapore Civil Defence Force からは、消防施策におけるテクノロジーの活用事例に関する説明があり、スマートフォンの動画を利用した通報システムや監視カメラによる化学薬剤漏洩・流出の監視システムなどが紹介されました。

また、マレーシアの Fire and Rescue Department of Malaysia からは、災害対応にあたる省庁の役割分担が説明されるとともに、現在の課題として、大規模災害時の省庁間や関係機関間の連携能力が挙げられました。

このような形で、複数の国から、重点的な取り組みや現在の課題を聞くことができるのも、「マルチ形式」ならではのことであり、日本の参加者からは「シンガポールやマレーシアのプレゼンテーションを通じて、これらの国の災害対応の現状や課題、関連組織をより理解することができた」などの感想が寄せられました。

（シンガポールからのプレゼンテーション）

（マレーシアからのプレゼンテーション）

（４）我が国の消防防災に関する国際協力案件

①ＪＩＣＡ

ＪＩＣＡの岡野氏からはＪＩＣＡの国際協力案件が成立するプロセスやこれまでにＪＩＣＡが主導してきた消防に関する国際協力案件を説明してもらうとともに、消防防災分野における人材育成の良好事例が共有されました。ＡＳＥＡＮ参加国からの関心は高く、日頃接する機会が少ないＪＩＣＡ職員と会話する機会をＡＳＥＡＮの消防防災関係者に提供することができました。

②日本での研修の活用事例

フィリピンの Bureau of Fire Protection の Embang 元長官からは、我が国で実施された救助研修への参加経験を基にフィリピン国内にＣＢＲＮＥ災害対応部隊を創設した経験の共有がありました。我が国での研修が、どのように研修生の国の能力強化に繋がっているかを、多くの方々と共有する貴重な機会となりました。

（我が国での研修の活用事例に関するフィリピンからのプレゼンテーション）

4. おわりに

国を問わず、消防は、火災、災害、事故の多様化及び大規模化、都市構造の複雑化、住民ニーズの多様化等の環境の変化に的確に対応し、国民の生命、身体及び財産を守る責務を全うする必要があります。そのためには、いわゆる常備消防のみではなく、ボランティアの充実強化も図っていくことが重要です。そして、火災予防や消防の最前線の活動に必要不可欠であるのが、確実に機能する消防用設備や資機材であり、これらの品質を担保するのが規格、認証制度等です。今次のフォーラム中、我が国からは、官民双方のプレゼンテーションにより、これらをすべてカバーしました。

また、他国の重点的な取り組みや課題、研修の活用ぶりを、マレーシア、シンガポール、フィリピンの３カ国から共有してもらいました。

１日半という限られた期間ではありましたが、このような多面的なアプローチを今次のフォーラムでは行うことができました。

フォーラムの最後に行われた鈴木消防研究センター所長のスピーチでも言及されたように、知見や教訓の共有は災害対応能力をより強化させるものであり、今次のフォーラムが全ての参加国にとって、そのような機会となっていれば、幸いです。

フォーラムは、国際協力分野及び海外展開分野における消防庁の主要施策の一つでありますので、今次の開催に関する各種のフィードバックや振り返りも踏まえつつ、引き続き、より良い実施内容を追求していきます。

（鈴木所長によるフォーラムを総括するスピーチ）

以上